

## 災害時電力供給へ協定

### 若松市と会津ソーラーエネルギー

会津若松市と、同市に太陽光発電所を設置している会津ソーラーエネルギー合同会社（本郷雅和代表）は6日、災害時の電力供給に関する協定を結んだ。地震や風水害などが発生して電力供給が停止した場合、同社は発電所内の非常用電源設備から市に対して優先的に電力を供給、市の迅速な災害対応につなげる。

同社はタイのバンブーパワーパブリックカンパニーリミテッド社とプライムロ

ードグループ社が出資。昨年12月に同市で、年間発電量が一般家庭約5600世帯分となる太陽光発電所の商業運転を開始した。

発電所には電気自動車や携帯電話などに充電できる非常用電源設備を設置。全域停電（ブラックアウト）が発生した場合でも使用可能で、市の要請を受けた場合、事業に支障がない範囲で電力を提供する。

締結式で、バンブーパワー

ージャパンの志摩渉社長と室井照平市長が協定書を取り交わした=写真。バンブーパワーージャパンの伊藤真人電力小売部長、会津ソーラーエネルギー合同会社の小田切秀夫会津若松事業所長が同席した。

